学校番号	３０１７

令和２年度　芸術〔音楽〕

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	単位数	1,2 単位	年次	2,3 年次
使用教科書	高校生の音楽２　（教育芸術社）３０９						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歌唱（合唱を含む）・器楽（リコーダー、ギター、等の）演奏・創作・鑑賞を柱に学習する。
・音楽Ⅱは音楽Ⅰからの連続履修を原則とするが、進路等の理由で選択変更もあり得る。音楽系の進路を考えている生徒は,早めに担当者まで相談に来ること。
・選択者へアンケートを実施し、生徒の状況及び実技レベル等により、適切に教材を選択する。

2 学習の到達目標

音楽の諸活動を通して，生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに，感性を高め，個性豊かな表現の能力と、主体的な鑑賞の能力を伸ばし，音楽文化についての理解を深める。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a：音楽への関心・意欲・態度	b：音楽表現の創意工夫	c：音楽表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように演奏し、表現するかの意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表現している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、感受しながら、楽曲や演奏を解釈し、価値を考えたりして、理解を深め、よさや美しさを味わっている。
評価方法	観察 演奏の聴取	観察 演奏の聴取	観察 演奏の聴取	観察 提出物

上に示す観点に基づいて、a：30%、 b・c・d：70%の割合で評価し、５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				題材の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
後期	歌唱	【合唱】 発声法 混声三部、 混声四部	○	○	○		a:合唱の楽しさを体験しょうとしている。互いに強調して音楽を作り上げている。 b:合唱の表現上の効果を理解し積極的に表現している。 c:曲にふさわしい発声の仕方で表現している。 各パートのバランスなどに注意して表現している。	観察 演奏の聴取
	鑑賞	【西洋音楽】 曲の背景・内容の理解	○		○	○	a:曲の背景について理解を深めようとしている。 c:曲に使われているさまざまな楽器の演奏法を理解している。 d:作曲者や時代による表現の違いを理解しょうとしている。	観察 提出物
	合奏	【器楽合奏】 様々な楽器に取り組む 小合奏 全体合奏 アンサンブル	○	○	○	○	a 自ら進んで様々な楽器に取り組み、互いに協力して音楽を作り上げている。 b:楽器の響きや特徴を生かして主体的に演奏している。 c:音量やフレーズを意識し調和のとれた合奏をしている。 d:音楽を形づくっている要素を知覚し、特質や雰囲気を感受しながら、音楽に対する理解を深め、美しさを感受している。	観察 演奏の聴取
	創作	【音楽理論】 音符・標記法 音程 音階 リズム創作 編曲	○	○	○		a:リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受し、主体的に取り組もうとしている。 b:互いの創作を聴き合い、役割をいしきして演奏に工夫を凝らしている。 c： イメージに沿った旋律やリズムの組み合わせ方、記譜の仕方など必要な創作技能を身に付けている。	観察 演奏の聴取
	発表	【演奏発表】 選択者による校内発表又は、地域別音楽会参加	○	○	○		a:自ら進んで主体的に演奏に取り組もうとしている。 b:各パートの特徴や役割を理解し、主体的に表現している。 c:効果や表現方法を考えて、曲の雰囲気を作り出している。	観察 演奏の聴取

※　表中の観点について　a:音楽への関心・意欲・態度　　b:音楽表現の創意工夫
c:音楽表現の技能　　d:鑑賞の能力

※　原則として、「歌唱」「器楽」「創作」の分野は a, b, c の３観点で、「鑑賞」の分野は a, c, d の３観点で評価をする。

※　履修年次を通して全ての観点について評価することとなるが、学習内容（題材）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。